

現況・課題

提案

**不安なこと
分からないこと**

どうやって情報を得るか
・口コミ情報
・ケアプラザ

どこに相談するか
・知られていない民生委員

外出
・福祉タクシーについて
・バスの車椅子対応について

介護症状について
・症状がどのように進むかが心配。

医療上の地域課題
・予防的な関わりがない
・往診医が少ない。
・以前に比べ患者さんに近い医師への訪問診療紹介件数が減った
・まちの救急箱 薬剤師

介護保険について
・紙おむつ支給について
・介護保険を申請するタイミングが分からない。
・お元気なうちに制度になっておくという働きかけができない
・家族の人がもう少し関心を持ってもらいたい。
・介護度が下がると怒る
・介護保険は、家族の関係を薄くしている。
・介護保険は福祉と言うよりビジネスになった。サービスに入る人達がビジネスライクで料金トラブルも起こ

誰が看る
・老老介護 できる限り自分で

どこで看る
・やれるところまで家で見たい。
・デイサービスやショートステイを目いっぱい使う。訪問看護、入浴などを利用。

年をとって起こるトラブル

犯罪
・訪問販売
・オレオレ詐欺

衰え（ゴミの問題）
・ごみ分別 高齢者にとって6分別は困難。高齢者は判断がつかずにそのまま出す
・ヘルパーさんの入れない時間帯は有料ヘルパーの必要性がある。

介護者との関係

人間関係
・ストレスがたまる。
・ストレス解消法
・デイサービス等を活用

ホームヘルパー
・老人性うつの人への訪問は挨拶をしても返事がない。コミュニケーションが取れないので活動がづらい。
・人の好き嫌いが激しく次々と一ヶ月単位で交換する利用者さんもいる。
・利用者さんが満足し、喜び、感謝してくれることがやりがいにつながる

どんなサービスがあるか

・デイサービス
・ヘルパー
・配食サービス
・送迎サービス

医療行為
・訪問NSと入浴NSの行為範囲の違い
・規制が多く、“やってあげたいこと”ができない。

介護ヘルプはどこに頼むか

突発ヘルプ
・急ぐときは民間
・福祉便利屋さん
・介護保険を申請して平常時から、部屋掃除等でヘルパーと関係を作っておく
・泊まりに行くのではなく、泊まりに来てくれる人はいないか。
・1箇所に連絡すれば、何でも手伝ってくれるところはないか。それぞれのサービスごとに連絡場所が違う。

ケアマネージャー

・ケアマネは現場とヘルパーをつなぐ仕事
・ケアマネはコーディネーター役をもっと
・介護保険以外のことを相談される。相談事をどこにつなぐべきか、知識が必要。
・ケアマネ自身は介護保険のみでなく全般的サービスを知らなくてはならない。ケアマネも知識、情報が充分でない。
・仕事の線引きと現場のズレ 家族が非協力

福祉利用者教育を
・介護保険に対する理解が本人にも家族にも必要である。

相談するひとつの窓口
・本人はこの人に言えばすべて大丈夫というひとつの窓口がほしい

町内会の役員の方は、 基本的なことを理解してほしい。どこに相談すべきかくらいは、地域の人に伝えてほしい。

サービスが行き届くためにも福祉（介護保険）の情報が正しく伝わるルートを

ケアプラザの活用
・伝える知らせる
・ケアプラザの情報が役立つ
・ケアプラザを知ってもらう

老人クラブの活動
・小学校中学校との交流
・おまつり
・自分のために趣味の活動
・健康・衛生企画

元気なお年寄りが弱い高齢者を支える

元気であるための活動
・引きこもらないで外に出る
・社会の一員であることを実感
・できる仕事をする

高齢者の体力づくり

地域で支える
・介護保険以外のところを地域で助け合う
・年寄りが来たときは愚痴を聞くのも商売！
・よるず相談場所があったら商店に情報があつまる
・ひきこもりの人に対して洗濯物が取りこまれているかなど見回り。心をひらくのに時間はかかるが、声掛けも大事。
・地域のノーマライゼーション
・訪問看護ステーションが地域の保健室になればよい
・買い物ついでに独居高齢者が集える場所があるとよい。

高齢者を支える活動
・コスモス会
・虹の会
・ふれあい会

福祉便利屋さん
・民間の便利屋の福祉版があればいい。
・巨大な施設や機関より、その谷間にいる人が利用しやすい小規模で融通の利く施設が必要。夜間のみ預かる施設とか。

現場の連携
・ヘルパーなど当事者を全部集めて現場担当者会議を
・全員のホームヘルパーが集まって基準の確認をし、統一する必要がある。HH同士の連絡会があまりないので、連絡会があれば良いと思う。
・NPOボラと連携
・医療との連携
・事業者、民生委員、ボランティア団体とケアマネとの連携を
・グループの連携